

Vol.
199

Handa Byouin Dayori

半田病院だより



〈栄養サポートチーム〉

半田市立半田病院 広報部会

栄養 サポートチーム (NST)

栄養サポートチーム(NST)とは?

管理栄養士 加藤 裕子

栄養障害の状態にある患者さんや栄養障害を生じるリスクの高い患者さんに対し、患者さんの生活の質の向上、原疾患の治療促進及び感染症等の合併症予防等を目的とし、栄養管理に係わる専門知識を有した多職種からなる診療チームです。

医師、歯科医師、摂食・嚥下^{えんげ}障害看護認定看護師、薬剤師、臨床検査技師、言語聴覚士、管理栄養士で構成しています。

令和元年国民健康・栄養調査によると、65歳以上の高齢者で低栄養傾向がある方の割合は、男性12.4%、女性20.7%で、男女とも85歳以上になると、その割合はさらに高くなっています。また、令和2年10月現在の厚生労働省が行った患者調査によると入院患者全体の75%を65歳以上の高齢者が占めております。疾患をきっかけに食思不振や絶食状態が続くと、さらなる低栄養を招き、回復するまでの入院期間が長くなり、患者さん・ご家族の方の負担が増加してまいります。栄養サポートチームは、平成18年4月から活動を開始し、入院患者さんの病気の回復を早めるため、栄養状態の改善に取り組んでいます。

【活動内容】

活動
1

主治医からの依頼で、栄養や嚥下^{えんげ}に不安のある患者さんへの栄養・食事形態について、週1回多職種で話し合い、病棟へ巡回しています。



活動
2

摂食・嚥下^{えんげ}障害看護認定看護師、言語聴覚士が、嚥下に不安のある患者さんの嚥下サポートを適宜行っています。

活動
3

褥瘡^{じよくそう}があり、創傷治療のための栄養に不安がある患者さんのサポートも、多職種の観点を活かし介入しています。

活動
4

栄養サポートの知識を高めるため、院内職員及び近隣施設の医療スタッフを対象に定期的な研修を実施しています。
→現在はコロナ禍により、開催を中断しています。



サルコペニア

と

栄養



薬剤師(NST専門療法士) 野崎 達也

加齢と筋肉

超高齢社会を迎えている日本では、現在4人に1人が65歳以上の高齢者となっています。今後も高齢化はさらに進むことが予測され、それに伴って加齢に関係の深い病気も増えています。その代表的な病気として認知症は有名かと思いますが、近年では「サルコペニア」が注目を浴びています。サルコペニアは主に加齢が原因で全身の筋肉が減ることにより、体の働きが低下する病気です。筋肉は40歳頃から少しずつ減っていき、70歳を超えた頃から自覚症状を認めるようになります。ペットボトルの蓋が開けにくくなった、信号が赤になるまでに渡りきれなくなったなどの症状がある方はサルコペニアの可能性があるので要注意です。



筋肉と栄養

昔は単に老化現象とも捉えられていたサルコペニアですが、健康寿命と密接に関係するため現在では予防が必要であると考えられています。サルコペニアを予防するためには適度な運動をして筋肉をつけることですが、運動をするだけでは筋肉は十分につきません。そこで大切になってくるのが栄養で、食事を十分に摂ることで運動の効果はアップし筋肉がつきやすくなります。食事はバランスよく十分なカロリーを摂ることが最も重要ですが、筋肉を増やすために特に大切なものはお肉やお魚、卵などのたんぱく質で

す。たんぱく質は食事から摂ることができれば理想ですが、食事だけでは補いきれないこともあると思います。そんなときは栄養補助食品をうまく取り入れる方法もあります。最近ではゼリータイプの栄養補助食品なども発売されており、より手軽にたんぱく質を摂ることができますよ。適度な運動を行って、たんぱく質を摂ることでサルコペニアを予防しましょう。



まだまだ続くコロナ禍ですが、

熱中症にもご注意を



救急科 医師 秋山 荘二郎

「熱中症」とは、暑熱環境下に生体が適応できずに発生する、さまざまな障害の総称です。

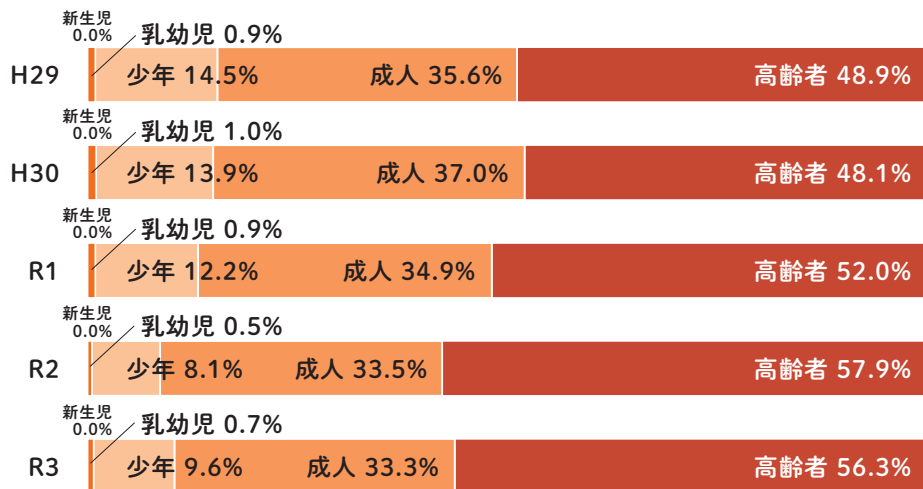
めまいやたちくらみ、頭痛や嘔吐、意識障害やけいれんなど、重症化とともに重い症状が出現します。最重症では死亡することもあります。

令和元年から続くコロナウイルスの影響により、熱中症発症者年齢の傾向に変化が起こっています。例年「高齢者」が最も多く、次いで「成人」、「少年」、「乳幼児」、「新生児」の順に続いています。コロナ禍に入った令和2年、3年の夏は高齢者の発症割合が例年よりさらに増え、若年者の発症割合が減少しました。これは、熱中症の年齢区分別の発生場所の違いが関係していると考えられています。高齢者では暑熱環境の屋内での発症が多く、若年者は屋外での活動中に発症する傾向にあります。コロナ禍での外出自粛が、高齢者の屋内での発症リスク上昇に、若年者の発症リスク低減にはたらいた可能性があります。

依然として、新型コロナウイルス感染症の蔓延は続いています。過去2年間自粛一辺倒であった社会活動にも、今後は変化がありそうです。ゴールデンウィークに、感染対策(マスク着用など)をした上で、遠方にお出かけをされた方、海外旅行に出かけた方もいらっしゃるかもしれません。夏休みに、旅行の予定を立てられている方もいらっしゃると思います。真夏日・猛暑日に外出が増えることで、今年は若年者の熱中症が増えるかもしれません。さらに、感染対策として必需品となったマスク着用によって、心拍数や呼吸数、血中二酸化炭素濃度、体感温度が上昇するなど、身体に負担がかかり、熱中症のリスクが高くなるおそれがあります。

熱中症の対策は、暑さを避けることが大原則です。屋内ではエアコンの使用を、屋外では涼しい服装や日傘・帽子の使用をこころがけてください。喉が渇いていなくても、こまめに水分補給をしましょう。また外出時には、人と2m以上(十分な距離)離れている時にはマスクをはずして過ごすことを推奨します。

年齢区分別「熱中症」による救急搬送状況



新生児：生後 28 日未満の者
乳幼児：生後 28 日以上満 7 歳未満の者
少年：満 7 歳以上満 18 歳未満の者
成人：満 18 歳以上満 65 歳未満の者
高齢者：満 65 歳以上の者

※端数処理のため、割合の合計が 100% にならない場合があります。

※構成比は各年とも調査期間全体における数値を計上しています。

- ・平成 29 年～令和元年及び令和 3 年の調査期間は 5 月～9 月
- ・令和 2 年の調査期間は 6 月～9 月

出典：総務省消防庁「令和3年(5月から9月)の熱中症による救急搬送状況」

新任医師紹介



脳神経外科
島戸 真司



呼吸器内科
小林 弘典



消化器内科
江崎 正哉



呼吸器内科
二村 圭祐



脳神経外科
加藤 直毅



産婦人科
國島 温志



糖尿病・内分泌内科
蓬臺 優一



糖尿病・内分泌内科
村瀬 貴紀



消化器内科
青井 有里波



循環器内科
稲葉 亮人



産婦人科
呉 尚郁



外科
石谷 紗希



歯科医師
伊藤 広貴

よろしくお願ひします！

新任職員紹介

4月から半田病院に入職した研修医です！
半田病院の一員として、地域医療の発展に
貢献すべく、精一杯頑張りますので
よろしくお願ひします！

研修医



看護師

4月から半田病院に入職した看護師です！
患者さんのことを第一に考え、より良い医療を
提供していきたいと考えています。
よろしくお願ひします！

天

病院組織の体制が変わりました！

令和4年度の機構改革により、これまでの医務局・看護局・事務局の3局に加え、新たに薬剤局・医療技術局を追加し5局体制となりました。

この体制により、病院内の組織横断的な業務のスピードアップやチーム医療の連携強化が図られ、新病院に向けた強い組織づくりを目指していきます。

経営企画室のご紹介

知多地域の急性期医療を担う半田病院が、高度な医療レベルとより質の良い患者サービスを維持し存在し続けるためには、安定した病院経営が必要不可欠です。

効率的かつ健全な病院経営の推進に向けた分析・企画・提案を行う部門として、令和4年4月から新たに経営企画室が設置されました。

各職種の専門知識を経営に活かすために、医師を始め、医療技術職、看護師、事務職等の多職種で企画会議を開催し、病院全体での職員参加型の体制をつくっており、まさに「全員野球」で経営改善に取り組んでいます。

【主な業務】

- 診療報酬改定に関わる情報収集と院内周知
- DPC制度(診断群分類別包括評価制度)に関わるデータを利用した経営改善の提案
- 経営分析システムを利用した病院経営分析
- 医療機器や診療材料の価格交渉によるコスト削減

+ 病院だより+ 新病院コラム その 9

これまでこのコラムでは、新病院の建設事業のことについてお話をさせていただきましたが、今回は、初めに、半田病院が新病院開院に向けて行っているもう1つの事業について、お話をさせていただきます。

もう1つの事業というのは、常滑市民病院との経営統合です。令和7年(2025年)4月に常滑市と共同で「地方独立行政法人」という組織を設立して、半田市と常滑市の市立病院の経営を統合する事業を進めています。病院の統合というと、東海市民病院と知多市民病院が統合して西知多総合病院になったように、2つの病院が1つの病院になることを思い浮かべる方が多いかもしれませんが、今回は、1つの組織が、診療機能を分担し、2つの病院を経営していくという大きな特色があります。

令和7年の経営統合に向けて、今年4月に新たに「統合準備室」という組織を設置しました。統合準備室には、半田市と常滑市から職員が配置され、診療・経営統合を進めています。

地域にとって最善最適な病院を目指してまいりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

一方、新病院建設事業も着々と進んでいます。

より正確な設計を行うために、4月から5月にかけて、建設予定地の中の約150か所で地盤調査を行いました。また、近くの半田運動公園で古窯跡が発見されていることから、博物館の学芸員立会いのもと、埋蔵文化財の調査も行いましたが、何も発見されませんでした。

いよいよ、7月からは敷地の造成工事に着手します。

皆さん、楽しみにしててください。

半田市立半田病院 広報部会 (事務局 管理課)

〒475-8599 愛知県半田市東洋町2丁目29番地 TEL 0569-22-9881 FAX 0569-24-3253
Eメール byouin@city.handa.lg.jp URL <https://www.handa-hosp.jp>

ホームページ

YouTube

6

★★★ 22E01394 / 半田病院だより_199号_P1_P6 / 版管249061-01
表裏あり / 半田市役所一般口 / 297×420 / 田中 / 2022.06.20

地